

越中八尾おわら歌碑 《いにしへの文化人との交流》

八尾の町中には、二十六基の歌碑があります。民謡『越中八尾おわら節』が今もなお人々の心を惹きつけてやまないのは、この民謡がもつ音律の哀調と踊りの優艶さと、その綾となる歌詞がおりなす情感の繊細さにあります。実際の八尾の空気と土の匂いを感じ、歌詞に秘められた、四季折々の彩が醸し出す山麓の町「八尾」で暮らす人々の生活感情、心豊かな時代背景を感じてください。



▲唄い手が参考にしてている唄本
～数多くの唄が存在する～

八尾公民館前(1/26)

八尾日和に白帆が見ゆる
白帆かくれてオワラ松の風

小杉放庵



小杉放庵（こすぎほうあん）
明治・大正・昭和時代の洋画家・日本画家・歌人・随筆家。本名は国太郎。明治十四年、栃木県日光市に二荒山神社の神官の子として生まれる。昭和三年一月二十八日に、富山市八尾町の初代越中八尾民謡おわら保存会（現富山県民謡越中八尾民謡おわら保存会）初代会長長川崎順二に招かれ、当時のおわら節を聴いて、「万葉や詩経にも劣らない素晴らしいもの、このまま放っておけば滅びる」と進言。そこで川崎順二が放庵に頼み作詞したのが「八尾四季」で、翌年二月十日夜付けの手紙でこの八尾四季を川崎に送っている。

八尾四季

【春】 ゆらぐ釣橋手に手をとりにて 渡る井田川 オワラ春の風

【夏】 富山あたりかあの燈火は 飛んでゆきたやオワラ灯取虫

【秋】 八尾坂道わかれて来れば 露か時雨かオワラはらはらと

【冬】 若しや来るかと窓押しあけて 見れば立山オワラ雪ばかり

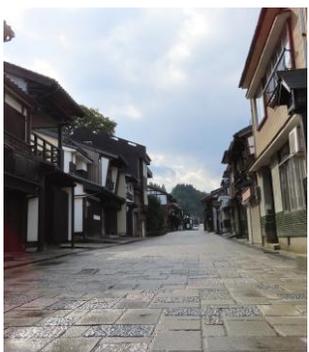
諏訪町通り入口(2/26)

私しや野山の兔じゃないが
月夜づきよにオワラ逢いに来る

野口雨情



野口雨情(のぐちうじょう)
詩人、童謡・民謡作詞家。本名は英吉。北原白秋、西條八十とともに、童謡界の三大詩人。明治十五年、廻船問屋を営む名家の長男として茨城県多賀郡磯原町に生まれる。
代表作に「七つの子」「証城寺の狸囃」「兔のダンス」など。



▲諏訪町通り

諏訪町通り(3/26)



八尾おわらを

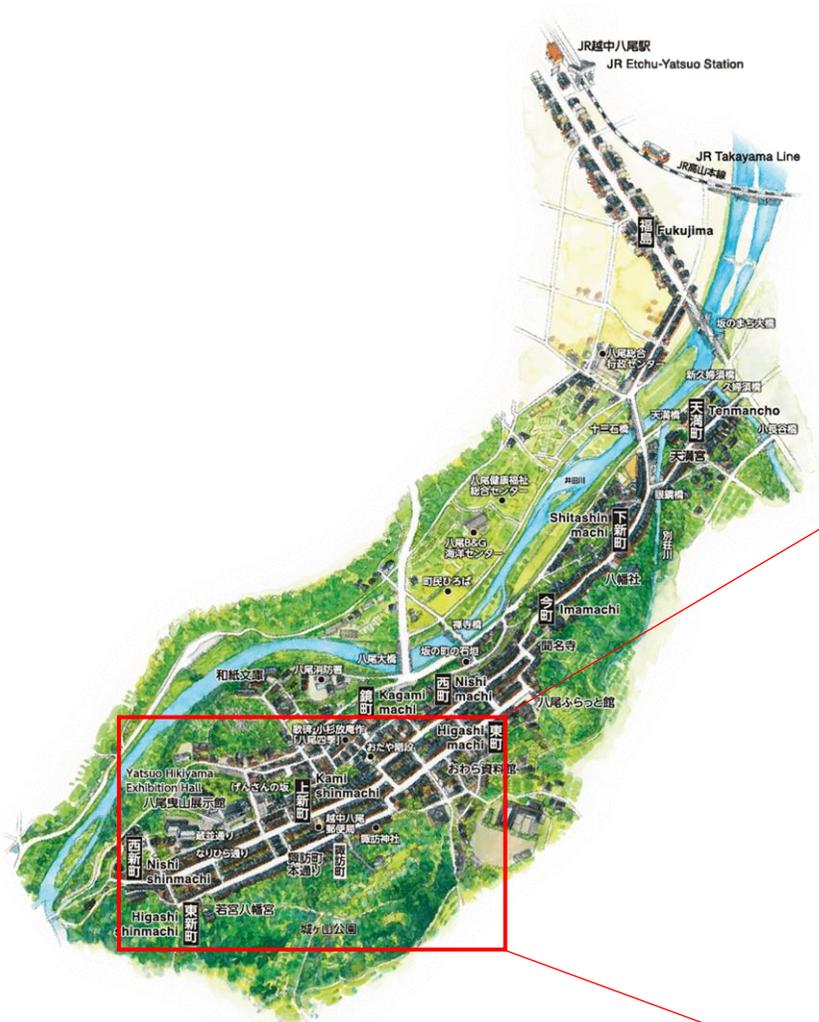
しみじみきけば

むかし山風

オワラ草の聲

佐藤惣之助

佐藤惣之助(さとうそうのすけ)
詩人・作詞家。明治二十三年、川崎宿砂子の本陣を預かる家柄に生まれる。佐藤惣之助の生家跡は、現在川崎信用金庫本店となっており、「佐藤惣之助生誕の地碑」が建てられている。
代表作に「赤城の子守歌」「六甲風」「燃ゆる大空」など。



川崎 順二 氏 書
 (平成三年八尾町社会体育館前より
 おわら資料館前へ移す。)

▲越中おわら発祥の地碑 (唄本より)

越中おわら
 『発祥の地』碑



八尾公民館前

諏訪町通り入口

諏訪町通り